

障害者病態解析特論（小松知子）

Advanced Course of Pathologic Analyses of Special Needs Patient
(Tomoko Komatsu)

キーワード

- ① 先天異常
- ② 病態メカニズム
- ③ 顎顔面領域の形態異常
- ④ 口腔の機能異常
- ⑤ 口腔疾患予防

授業概要

顎顔面部の異常によって診断が可能な症候群の口腔および全身の特徴を理解するとともに、その原因となる因子に関する最新の研究成果に触れることにより、自らの研究能力を高める。また、科学的根拠にもとづいた知識と論理的な思考力をもとに診断、治療計画の立案、疾患の予防法を修得する。さらに、歯の早期脱落、歯の先天性欠如、歯の萌出遅延、歯の形態異常、形成異常をきたす症候群の病態、発症メカニズムにおける最新の研究に関する英語論文を抄読し、プレゼンテーションするとともに、実際の症例において治療計画の立案を検討する。

授業科目の学修目標

先天異常を中心とした症候群の原因とその特徴における遺伝子あるいはタンパクレベルでの生理的機能、病態に関する最新の研究成果に触れ、歯の萌出異常や歯および顎顔面領域の形態異常、口腔機能異常、口腔疾患への易罹患性などの口腔に関する病態、発症メカニズムとの関連づけ、科学的根拠に基づいた論理的な治療計画の立案や口腔疾患の予防法に対する思考力を身につける。

授業計画

- ① 先天異常の臨床症状と遺伝子レベルでの病因論 3コマ 小松知子
- ② 先天異常の病態、発症メカニズムにおける最新の知見 5コマ 小松知子
- ③ 先天異常の口腔疾患、特徴からみえてくる病態メカニズム 10コマ 小松知子
- ④ 先天異常の病態を考慮した診断、治療計画の立案、口腔疾患の予防法 12コマ 小松知子

教科書および参考書

- ① 日本障害者歯科学会編：スペシャルニーズデンティストリー障害者歯科（第2版）、医歯薬出版 2017
- ② 池田正一・黒木良和監修、日本障害者歯科学会編：口から診える症候群・病気、口腔保健協会 2012
- ③ 和泉雄一・長田 豊監修：Periodontics for Special needs Patients 障害者・有病者の歯周治療デンタルダイヤモンド 2017

履修に必要な予備知識や技能、および一般的な注意

各症候群の定義や概要(疫学、概念、病態、合併症)および口腔の特徴に関する基本的知識を必要とする。
医療倫理やスペシャルニーズに関する基本的知識を身に付けていること。

大学院生が達成すべき行動目標

- ① 先天異常の臨床症状と遺伝子レベルで病因論について説明できる。
- ② 先天異常の病態、発症メカニズムについて説明できる。
- ③ 先天異常の病態メカニズムと口腔疾患を関連づけて説明できる。
- ④ 先天異常の病態メカニズムを考慮した診断、治療計画の立案、口腔疾患の予防法を記述できる。

評価

試験	小テスト	レポート	成果発表	ポートフォリオ	口頭試問	その他
30%	0%	0%	32%	8%	30%	0%

評価の要点

- ・試験（多肢選択式客観試験）は、授業計画で行った講義の知識の理解度を判定する。1回30%
- ・成果発表は、①～④の各項目について成果を発表する。8%×4回=32%
- ・口頭試問は、授業終了後毎行い、知識の理解度を判定する。1%×30回=30%
- ・ポートフォリオにより技能、態度を評価する。積極的、意欲的な態度に関しては加点する。
2%×4回=8%

理想的な達成レベルの目安

障害者病態解析特論の理想的な達成レベルは70%以上とする。